

## 題材名 思いを「花」に表現する ～和の世界の美しさ～（絵画）

日本画材料に触れて、さまざまな花を和の雰囲気で表現する活動

学年	1 年
場所	美 術 室

### 1 題材について

初めて日本画の材料に触れた時、鉱物、植物、貝など自然の材料そのものの持つ美しさに感動した。生徒にその感動を伝えたいと考えた。しかし、日本画の画材は決して扱いやすいものではなく、その技法を習得するにも時間がかかる。また、材料も高価である。本題材では、中学校美術において生徒が日本画に親しむことをねらいとした。

本題材は、学習指導要領第1学年の内容「A表現」(1) ア(ア)「対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。」および「A表現」(2) ア(ア)「材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。」「B鑑賞」(1) ア、[共通事項] (1) ア、イにあたる。

本題材では、思いを「花」に表現する。花言葉には、オリーブ「平和」、あやめ「燃える思い」、ひまわり「私はあなただけを見つめる」等、様々な意味がある。作者が表現したい思いを「花言葉」から探り、実際に描く花に込めたい。日本画の画材は、色彩が美しく様々なものがある。今回使用するものは、色紙や墨、水干絵の具などのものが中心となる。水干絵の具は、日本画の絵の具の中で、安価で比較的扱いやすいものである。成分は、天然の土や胡粉に染料を染め付けたものであり、乳鉢で粉状にすり潰し、膠などの接着剤と練り合わせ水で溶いて使用する。金箔を模した絵の具やシールも画面の効果として取り入れる。制作の手順としては、まず制作に入る前に、日本画の作品の鑑賞活動を行う。作品から感じる雰囲気や材料や用具の特性について、話し合い活動を取り入れながら考えを深めさせたい。次に、自分の思いをワークシートに書き出し、花言葉を探す。花言葉から花を選び、下図を描く。下図は色紙に転写し墨で骨描きしていく。骨描きとは、輪郭線を引く技法である。彩色に入った際の目安であり、絵の具を上から塗ったときでも下地に残る墨の線がたよりとなる日本画の重要な技法である。彩色に入る前に、絵の具の溶き方、塗り方等、扱いが難しい作業について練習を行った後、色紙に彩色していく。日本画の材料や用具を生かしながら、自分の表現に合うように意図に応じて工夫をするなど、制作の順序を考えながら見通しをもって表す力を育てたい。

アンケートを行った結果、日本画という言葉を知っている生徒は14%であった。使用している材料について知っている生徒は5%であり、日本画についての理解はほとんどない。花を描いた経験は、小学校で全員が図工、生活科、理科などで、朝顔、アジサイ等を描いている。6年生の最後に「小学校の思い出」をテーマにして、一版多色刷りによる木版画を制作した。「思い出」から今回の思いを「花」に表現するという題材を扱うことで、進学した彼らの表現の変化や心の成長を作品に反映させてほしい。そして、生徒に日本画材の美しさや日本の伝統美術の深さを味わわせたいと考え本題材を設定した。

### 2 題材の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本画の絵の具の色の美しさや用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現する。	『思いを「花」に表現する』から、自分なりのテーマを想像する。 他者の考えを理解し、自分の表現主題と照らし合わせる。	日本画の材料の特性について、感じたことなど意見を話し合う。

### 3 指導計画（11時間扱い）


- 日本画の作品の鑑賞や、材料や用具の特性・使い方について学習する ————— 2
- 色紙に、モチーフを描き、日本画材料を使った絵画制作をする —————（本時 4/9） 9
- 【①ワークシート1時間 ②転写1時間 ③骨描き1時間 ④彩色6時間(本時)】
- 対話的な活動を取り入れて、お互いに完成した作品を鑑賞する ————— 1

### 4 材料・用具 等

色紙（絵葉書）、水干絵の具、墨、金属絵の具、箔シール、絵皿

### 5 本時の指導

- 本時の目標と学習課程
- ・自分の作品に対する意図に応じて、日本画の材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現する。

学習活動と内容	教師の支援 ★評価
○今日の学習課題を知り、学習の見通しを持つ。	○自分の作品と照らし合わせながら、計画を持って学習するよう伝える。
「花」に美しい色彩を加えよう	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○班ごとに材料や用具の確認をする。</li> <li>・ 班長や班員で作業の準備をする。</li> <li>○日本画の水干絵の具と今まで使ってきた絵の具との違いを班ごとに発表する。</li> <li>○絵の具を使って彩色を行う。</li> <li>・ 使いたい色を選び、色紙に塗っていく。</li> <li>・ 金属絵の具や箔シール等の中から、何を自分の作品に使うか決める。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品の中でどの場所に金属絵の具や箔シールを使うのかを確認する。</li> <li>○今日の授業で感じたことを班ごとの代表者が発表する。</li> <li>○後片付けをする。</li> <li>・ 班員と協力して材料・道具の片付けをする。</li> <li>○今日の授業を振り返り、ワークシートに感想を記入する。</li> <li>・ 班長がワークシートを提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全員に材料や用具の扱い方の説明をする。</li> <li>○班ごとに自分の役割を確認させる。</li> <li>○絵の具の違いについて「扱いやすさ」「色の輝き」などについて具体的に感想が言えるように説明をする。</li> <li>○慣れていない絵の具や画材を扱うため、手順を説明する。</li> <li>○金属絵の具や箔シールの扱い方を説明する。</li> <li>・ 箔シールの貼り方がむずかしい。</li> <li>・ 金属絵の具がうまく塗れない。</li> <li>○画材の使い方や特性を説明することで、画面の中で効果的に表現させるようにする。</li> <li>○日本画の水干絵の具を使って制作を進めてきた中で、改めて感じたことを発表させる。</li> <li>○班ごとに、全員で協力して片付けさせる。</li> <li>○感想を書かせることで、今日の活動を振り返らせ、個々に感じたことや興味関心の視点を把握する。</li> <li>★日本画の材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現できたか。（思考・判断・表現）</li> </ul>